

PET サマーセミナー 2013 in 加賀百万石 印象記

塚本江利子
Tsukamoto Eriko

2013年のPETサマーセミナーは8月23～25日の3日間、絹谷清剛大会長の下、金沢市のホテル日航金沢でテーマを“fight against diseases!”と題して開催されました。おりしも当日は豪雨に見舞われ電車が止まるなどのトラブルもあったため、大会長は気を揉まれたようでしたが、実際はそれほどの影響もなく盛況な大会でした。筆者は、来年の開催の準備のためクリニックの職員と総勢9人で会場に乗り込みましたが、タイミングよくあまり雨にもあわず、問題はありませんでした。

ところで、今回は来年の開催を念頭に置いたセミナー参加でしたので、会期中にプログラムに書き付けたメモを見ると運営面のことがあまり書かれていません。そのような事情で、今回はいつもの印象記に比べ、学術的ではないことをお許しください。

さて、大会の方ですが、大会長の開会宣言のあと、15時過ぎからwork in progressのセッションが始まりました。各メーカーの方たちが各分野の革新技術を発表されるこのセッションが、いつも大会の始まりを告げます。山口慶一郎座長（仙台厚生病院）の下、菅野巖先生（放射線医学総合研究所）のするどい質問が飛び、本音のディスカッションも聞かれ、これぞサマーセミナーという印象でした。TOF (Time of Flight) 法の話や呼吸同期・補正の話などが主でしたが、(株)フィリップスエレクトロニクスジャパンの方がTOFの説明を丁寧にされ

ていたことが、筆者にはとても印象に残りました。

各自で夕食を取った後、恒例の夜の学校が始まりました。お酒を片手に自由なディスカッションをするというのがそもそものコンセプトです。参加人数が多くなるにつれ、なかなか自由な討論も難しくなってきましたが、このセッションはほかの学会にはないものだと思います。症例検討に参加させていただきましたが、日常的にCTやMRIの診断をされている先生にとって当たり前のことが、筆者のように最初から核医学を専門としている者にとっては分からないなあ、と恥ずかしながら感じました。例えば、若い女性の臍腫瘍について「“若年、臍腫瘍、石灰化”というとあれですよ」という先生方の会話が、筆者には「？」でしたが、インターネットでその言葉を入力すると、すぐに病名が表示されました。これからはすぐ分かります。また、看護施設のセッションでは、今までと少し違った趣向でFDG以外の薬剤を使用した検査についての発表があり、とても勉強になったと参加した看護師が話をしていました。

2日目はセミナーのメインの日ですが、たくさんの工夫を凝らしたセッションが企画されていました。「サイクロ放射化物の取り組み～おっちょこはこれで行くわいね」とか、「私たちがいなければPETなんてできないのよ」などの演題にひかれて参加してみました。放射化物の問題は多くの施設にとって頭の痛い問題



写真 1

で、幾つかの施設の経験が勉強になりましたが、まだまだ解決されていない問題があるなども感じました。また、看護師さんたちの「私たちがいなければ……」のセッションも、司会の方がフロアから意見やコメントをうまく引き出して、興味深いセッションとなっていました。午後には、京都大学の中本裕士先生と企画させていただいた「臨床 PET 入門講座：明日から PET を始めよう」の司会と講演をさせていただきました（写真 1）。たくさんの方が参加してくださり、少しでも役に立つノウハウを勉強していただけたのではないかと自負しています。

2 日目の夜のメインイベントは懇親会です。会場に入りきれないほどたくさんの方が集まり、おいしい食べ物、お酒、そして太鼓の勇壮な調べと踊りを楽しみました（写真 2）。今年は二次会がない分、懇親会を遅い時間まで設定されたようで、たくさんの方が残り、お酒を飲み、語り合っていたとのこと。筆者はといえば、中締め乾杯をした後、近くの居酒屋で職員と飲んでいました。深夜に携帯電話に着信があったようで、懇親会に残った方が来年の大会長はどこだと探して下さったそうですが、筆者はその頃、ホテルのベッドの中でした。

最終日は一般演題の発表もあり、3 会場から 4 会場にわたってのセッションが行われました。今年は総じて内容が濃く、多くのセッショ



写真 2



写真 3

ンがあり、たくさん勉強させていただきました。最後に筆者から来年の大会へのお誘いをさせていただき、大会長の閉会宣言で今年のセミナーを締めくくりました（写真 3）。絹谷先生、本当にお疲れ様でした。

（社会医療法人禎心会 セントラル CI クリニック）